

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	一般演題口演
タイトル	在宅医療における有床診療所の役割
日時	平成 25 年 3 月 30 日 11 : 20～11 : 30
会場	第 8 会議室
座長	放送大学 田城 孝雄先生
演者	医療法人社団プラタナス松原アーバンクリニック 荒木 庸輔先生
企画趣旨	<p><目的> 当院が訪問診療を提供する在宅患者の病棟利用実績の分析を通して、今後の在宅医療において有床診療所が果たし得る役割を検討する。</p> <p><方法> 2011年4月1日～2012年8月31日に当院が訪問診療を行った患者における病棟の利用実績を分析し、利用率、利用回数、および在宅患者全体の看取りにしめる病棟看取りの割合などを調査した。利用回数は「1回」「2～4回」「5回以上」のカテゴリーに分類した。利用目的は「ショートステイ」「治療」「ホスピスケア」のカテゴリーに分類し、病棟看取りとなった患者については、その要因を分析した。さらに在宅患者に対するアンケート調査を通して、病棟の存在が在宅医療機関の選択に与える影響を調べた。</p> <p><結果> 対象期間における全在宅患者 290 名（*有料老人ホームの患者を除く）のうち、病棟を利用した患者は 69 名（23.7%）で、約 4 人に 1 人が病棟を利用していた。利用回数では「1回」47 名、「2～4回」19 名、「5回以上」3 名であった。目的別では「ショートステイ」が 59 件と最も多く、次いで「ホスピスケア」29 件、「治療」25 件の順であった。対象期間に在宅療養中に看取りになった患者 88 名のうち、病棟看取りは 28 名（31.8%）であった。病棟看取りになった要因としては、介護力不足、本人家族の希望、病状悪化などがあつた。また、在宅患者に対して行ったアンケート調査では、アンケートに回答した患者の多くが当院を選ばれた理由として「入院設備があるから」と回答した。</p> <p><結論> 万が一の時に入院できるという安心感から、入院設備がある医療機関を在宅医療機関に選ばれるケースもあり、患者家族の有床診療所への期待は大きい。ニーズは多様化しており、レスパイトを含む短期入院から看取りまで、在宅療養中に起こりうるあらゆるイベントにフレキシブルに対応することが求められる。厚生労働省の『終末期医療に関する調査』でも「介護してくれる家族に負担がかかる」「症状急変時にすぐに入院できるか」といった不安が在宅療養移行や継続の阻害要因とされており、こうした課題に対応する地域インフラの一つとして、有床診療所の役割は益々高まることが予想される。</p>